

道の駅アリストぬまくま 再整備基本構想・概要版

1. 再整備の方向性

道の駅アリストぬまくまは1996年(平成8年)の開業以来、地域住民を中心に親しまれてきました。再整備にあたっては、道の駅を取り巻く各種環境の変化を捉え、観光需要への対応はもとより、南部地域全体の活性化を牽引する**地域振興の拠点**となる道の駅をめざしていきます。

【道の駅を取り巻く環境の変化】

2025年(令和7年)3月の「**新**納未来トンネル」の開通など、道の駅を取り巻く環境が変化をしています。これらの変化は、道の駅が**新たな観光需要に対応し**、地域内外からの来訪者を増やす機会となるものです。

①国・本市の動向による地域振興や観光需要への対応の要請

- ・国により道の駅「第3ステージ」への促進がされ、「**地方創生・観光を加速する拠点**」としての期待が高まっています。
 - ・「**福山市観光振興基本戦略**」の改訂が進められ、道の駅が「**南部地域活性化の拠点**」として位置付けられる予定です。
 - ・「**〔仮称〕地域の拠点づくり戦略**」の策定が進められ、道の駅が「**南部地域の拠点づくりの候補となる事例**」として取り上げられる予定です。
- また、「**陸の道・海の道構想**」の推進に向けて、道の駅の活用を進めること記載される予定です。

②南部地域の現況を踏まえた観光需要増加の可能性

- ・「**新**納未来トンネルの開通」により納地区の観光客の道の駅への流入増加が見込まれます。
- ・**納地区の新たな開発動向**による地区全体の観光客数の増加、相乗効果による道の駅への観光客の流入増加が見込まれます。
- ・南部地域全体で**豊富な観光・体験資源**を有しており、道の駅との相互連携が期待されます。

③地元からの観光需要増加への期待

- ・**あり方懇談会**においては、収益性向上等の観点から現状の足元需要の獲得に加え**観光需要の獲得に期待**する意見が挙げられています。
- ・また、観光需要の獲得に当たっては、「**体験**」や「**アクティビティ**」の**要素が重要**であるという意見が挙げられています。



【再整備の方向性・めざす姿】

道の駅を取り巻く環境の変化を踏まえて、**地域振興と観光振興の両輪で南部地域の持続的な発展に貢献するため**、地域の皆様と共に創り上げていきます。

①地域住民が主体となる「交流・活動拠点」

地域住民同士が自然に交流し、活動できる場を提供することで、地域全体のコミュニティ活性化を図る地域振興の拠点をめざします。地元の文化イベントやワークショップ、地域会議など、住民の自主的な活動や連携を支援する機能を備えます。また、地域の伝統文化の継承や新たな文化創造を促進するプログラムなどを展開し、地域への愛着と誇りを育む地域振興の拠点をめざします。

②「地域の魅力」を最大限に引き出す拠点

南部地域全体の産業・観光・地域振興の拠点として、地域の豊富な観光・体験資源を活かし、訪れる人々に新たな発見や体験を提供する場をめざします。また、観光客のみならず、地元のリーダーにも魅力を感じてもらえるような、多様な機能とサービスを備えた施設をめざします。

③持続可能な「地域経済」の一助となる施設

持続可能な地域経済の発展に寄与する施設として、地元の産業や農業を支えると共に、新たな観光需要を取り込むことで地域全体の経済活性化に貢献します。また、地元の特産品の販売促進や新商品の開発、観光客向けの多様なイベントや体験プログラムを通じて、地域の経済基盤を強化します。

④環境に配慮した「安心・快適」な施設

環境に配慮した持続可能な運営をめざし、訪れる人々に安心・快適な施設を提供します。また、老朽化した施設のリニューアルにより、最新の設備やインフラを整備し、エコな取り組みを進めることで、訪れる人々にとって快適で過ごしやすい空間を提供します。

2. コンセプト・ターゲット

「南部地域の拠点」をめざす新たな道の駅のあり方を体現したコンセプト・ターゲットを設定します。
【コンセプト】

タイケン、ハッケン、極上ぬまくま
～ひと(生産者・消費者)・もの(産業)・こと(体験)を育む福山市の南の玄関口～

【ターゲット】

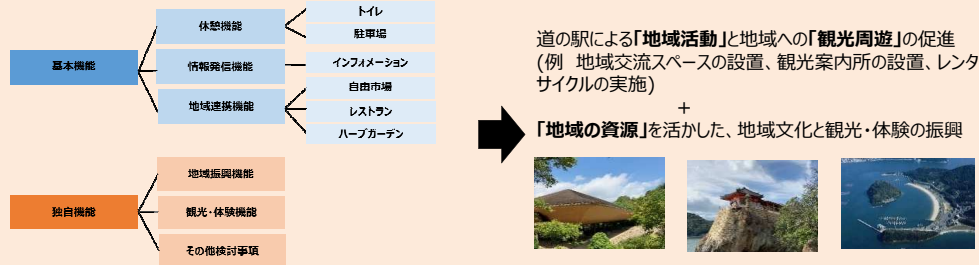
足元需要：南部地域から訪れる地元の利用者を指し、基本構想では道の駅から車で20分圏内の利用者と定義します。

観光需要：市外・県外も含む地元外の利用者を指し、基本構想では道の駅から車で20分圏外の利用者と定義します。

➡ 再整備に際しては、足元需要の継続的な獲得に加えて、インバウンドも含めた「**観光需要**」の**獲得も重視**していきます。

3. 機能

道の駅の基本的な機能(休憩機能/情報発信機能/地域連携機能)に加えて、独自の機能として「**地域振興機能**」や「**観光・体験機能**」を付与し、地域と一体となった取り組みを実現していきます。
＊設置機能の最終決定及び具体化は「基本計画」内で行います。



4. 今後の予定

2029年度(令和11年度)のリニューアルオープンをめざし、今後も再整備に向けた取り組みを進めていきます。2025年度(令和7年度)は策定された「基本構想」に基づき、「**基本計画**」の策定を行い再整備に向けた具体化を進めます。

	2024年度 (令和6年度)	2025年度 (令和7年度)	2026年度 (令和8年度)	2027年度 (令和9年度)	2028年度 (令和10年度)	2029年度 (令和11年度)
基本構想策定						
基本計画策定						
実施設計						
建設工事						
リニューアル オープン						

【今後の検討事項】

- ・機能の決定
- ・施設配置
- ・施設規模
- ・官民連携のあり方・手法の検討
- ・概算事業費
- ・事業スケジュール